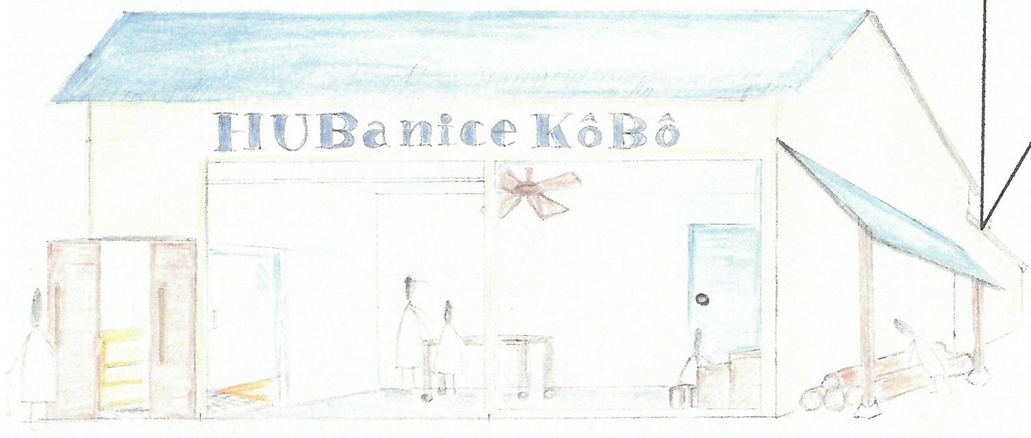
タイトル	空き家が繋ぐ！地域資源の輪を創る　HUB a nice KoBo（工房）	所在地	瀬戸内町阿木名集落	構造	木造在来構造	建物階数	1 階建

住居部分　　商店部分

間取りイメージ



正面イメージ

コンセプト

DIYを身近に～まちのみんなが大工さん～

奄美大島の瀬戸内町阿木名集落には空き家が点在しています。その一つを利用して、2018年10月末にHUB a nice d！という名のチャレンジショップ兼コミュニテイスペースが誕生しました。築60年空き家歴5年以上の物件に命が吹き込まれ、まちの人々が集まる空間として利用されています。

リノベーションを行う際に、机や棚を作ったり、壁や床を漆喰や塗料で塗ったり、地域の方々と一緒に行いました。そこで感じたのは、DIYでモノを作り出すことの楽しさ。みんなで協力をして、作り出す過程を楽しみ、完成させる喜びでした。

今回アイデアとして提案するのは、DIYを身近に感じられるまちの工房を創ります。旧商店兼住宅としてまちに愛されていた空き家物件を、家具や雑貨が作れる工房に変化させ、大工さんから学べるワークショップを開催したり、カフェスペースで設計図を描いたり、地域や家族が集まり、繋がる場として生まれ変わります。

空き屋物件の特徴

空き家歴5年　集落に愛し続けられた商店兼住宅

瀬戸内町阿木名集落に存在していた日用品や食料品を扱う商店。昔は集落の人たちの買い物の場として賑わっていたが、隣町にできた大型スーパーに客足はとられ、十数年前から衰退していった。

90歳に近いおばあちゃんが切り盛りしていたが、後継者はおらず、5年前におばあちゃんも施設に入ることになり、商店は空き家状態に。

物件は国道沿いに面していて、使わないのはもったいないと人々は言うが、商店を開業する者は誰もでてこなかった…。

上記のようなストーリーを歩んだ、店舗部分がコンクリート土間打ち、住居部分はリビングダイニングと、和室、客間のある、1階建ての、離島ではスタンダードな間取りの木造物件を想定しました。

活用方法のイメージ

①まちのみんなの工房/大工さんの秘密基地

丸ノコや電動カンナなど、一般家庭ではなかなか揃えることのできない工具を置いて、レンタル工房として利用します。都会ではホームセンターの一角にあるような工房で、工具の使い方を安全に教える指導者がつき、一緒にDIYものづくりの楽しさを学びます。離島ではDIYを学び体験する場が少ないので、この場を創ることにより、離島で採れる素材（海に流れ着いた流木やシーグラスなど）を生かした家具や雑貨もみんなでアイデアを出しながら作れるようになります。また、離島には、好きなデザインのモノが島内にはなかったり、インターネット販売で取り寄せても送料が高かったり、物流面でのハンデがあります。それを材料を仕入れ、設計から自ら行い作製することで、理想に近いモノが生まれ、モノへの愛着を形成します。

時には、島の大工さんが教えるワークショップを開催し、高度な技術のものづくりの体験や、空き家の活用方法を一緒に考えたり住宅の台風対策の方法を学んだりします。近年、人手の足りない大工仕事を身近に感じると共に、空き家活用のハードルを下げる啓蒙活動も行います。

②工房カフェとミーティングスペース

住居部分は、カフェとして開放し、DIYの休憩に使ったり、設計図を考えたり、思いおもいに過ごせる癒しと学びの空間です。作品が完成したら、工房からカフェまでのギャラリースペースで作品自慢をするのも達成感をもたらします。